

(7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

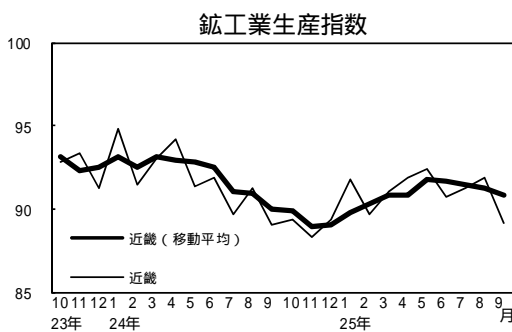
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 8 月)	今回 (平成 25 年 11 月)	
鉱工業生産	持ち直し	<u>緩やかに持ち直し</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

7～9月期には、一般機械は、ガスタービンやコンベヤにまとまった出荷があったこと等から増加した。化学は、ポリプロピレン等の生産が伸びたこと等から増加した。食料品・たばこは、たばこの生産が低調だったこと等から減少した。電気機械は、セパレート型エアコンやメガソーラー向けの太陽電池モジュールの生産が伸びたこと等から増加した。鉄鋼は、鋳鍛造品等で減少した。



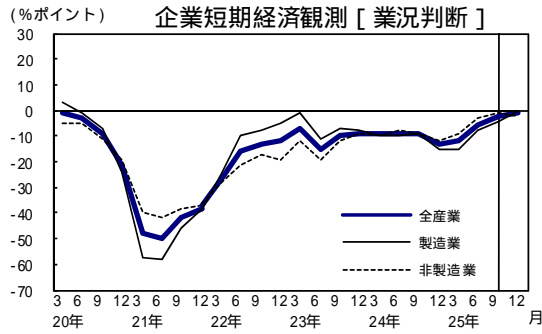
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
一般機械	17.0	6.4	5.6	1.5	13.5	10.1
化学	14.5	1.9	0.9	4.2	7.2	1.1
食料品・たばこ	9.1	1.4	3.9	3.1	0.2	1.9
電気機械	8.5	1.5	1.9	0.8	0.3	3.8
鉄鋼	7.5	0.1	0.8	6.8	0.3	1.0
鉱工業	100.0	1.0	1.0	0.6	0.7	2.9

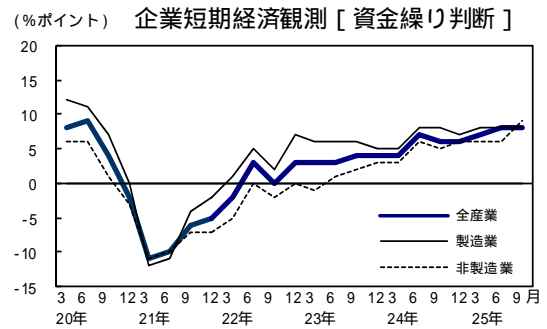
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。
2. 太線は後方3か月移動平均。

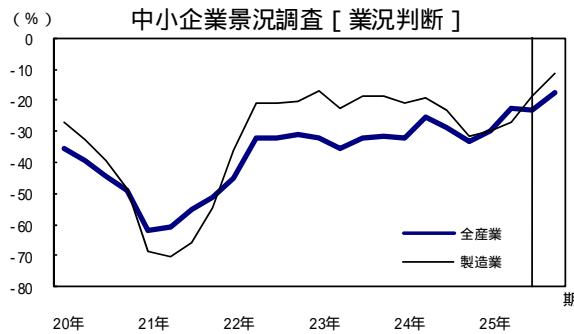
(2) 業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年12月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

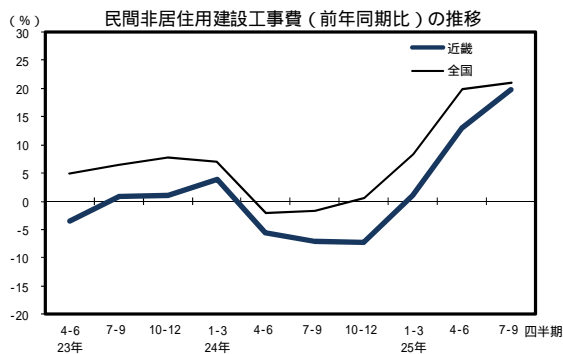


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「消費税率の引上げで駆け込み需要が出てくるのは、建設のリース関係や、年間購読料などの見込購入によるものがほとんどで、この業界は特に関係がない。逆に、加工賃などの値上がり分を販売価格にうまく転嫁できず、苦戦を強いられている(繊維工業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度価
全産業	1.0	5.4(0.2)
製造業	2.7	4.3(0.6)
非製造業	3.6	6.1(0.7)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.0%減、8月は同0.1%増、9月は同0.3%減となった。

大型小売店販売額

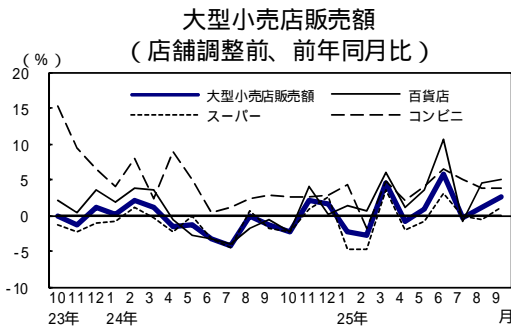
百貨店は、7月は、クリアランスセール開始が6月へ前倒しとなった反動などから、前年を下回った。8月は、猛暑により盛夏商材が活発に動いたことなどから、前年を上回った。9月は、台風など天候不順の影響はあったものの、秋物ファッションに動きがみられたことなどから、前年を上回った。

スーパーは、天候不順の影響はあったものの、農産が野菜の相場高で好調で、畜産も好調であったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

近畿地域の家計動向関連DIは、50.4となり前月より2.6ポイント低下した。

「来客数が減少している。異常気象の影響が大きいと思われるが、購買意欲も感じられない (スーパー)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

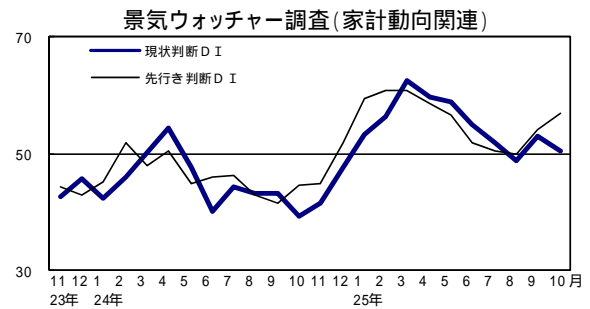
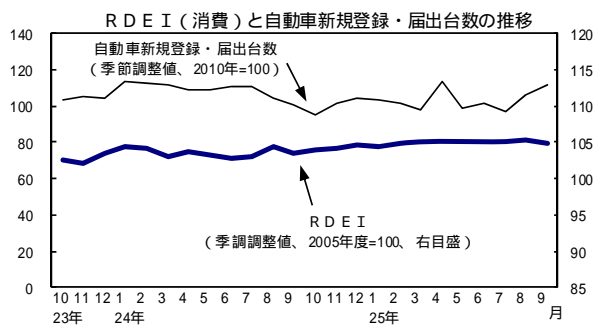


	25年7-9月	25年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.1	0.0	0.1	0.3
大型小売店(*2)	1.0	0.4	1.2	2.6
百貨店(*2)	2.5	0.8	4.6	5.1
スーパー(*2)	0.1	0.2	0.6	1.2
コンビニ(*2)	4.3	5.0	3.8	3.9
乗用車(*3)	0.9	9.7	0.3	13.8
(季節調整値)(*3)	0.2	4.8	9.4	5.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

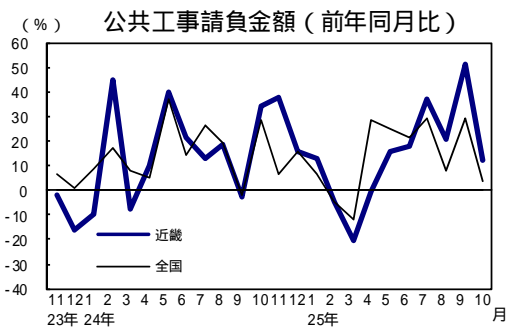
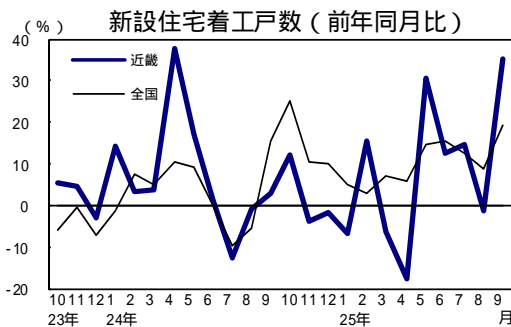
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

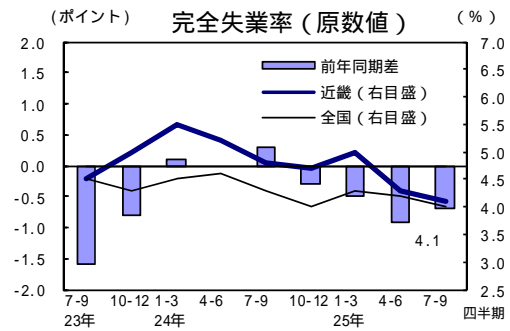
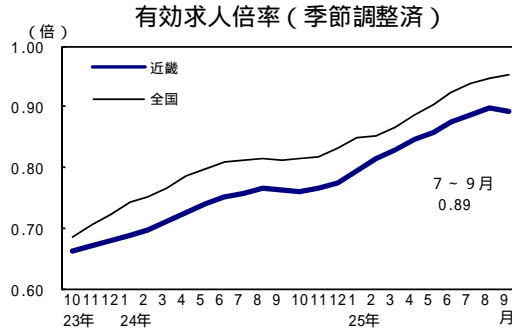


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

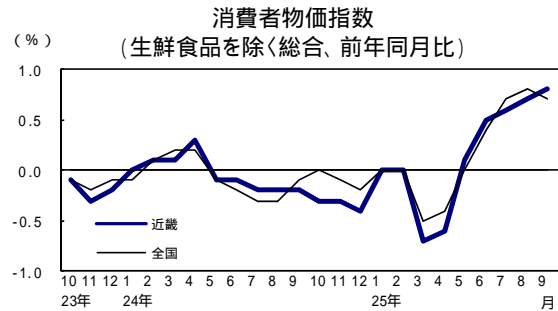
「先月に比べ、様々な職種の求人が増加してきている(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年10-12月	25年1-3月	4-6月	7-9月	25年10月
倒産件数	760	679	715	649	239
(前年比)	11.4	13.8	10.5	10.9	5.2
負債総額	1,148	706	1,045	1,321	296
(前年比)	13.7	30.7	33.2	71.7	15.8



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・取引先から増産の要請を受けているが、生産能力が一杯でこたえることができない(金属製品製造業)

<先行き>

・これからクリスマス、年末年始に向けてのイベント商戦が始まるため、景気は今よりも良くなるはずである(食料品製造業)

